

## 1.3 NCDs関連政策・NCDs罹患に係るマクロ統計情報調査（1/3）

### ■ NCDs罹患に係るマクロ統計

バングラデシュでは、経済発展に伴い平均寿命が伸び、都市化が急激に進んでいる。これに伴い、保健セクターでは、食習慣や生活様式の変化等により、この20年間でNCDsによる死亡が大きく増加している。

図8: 死因割合の変化（2000年－2019年）

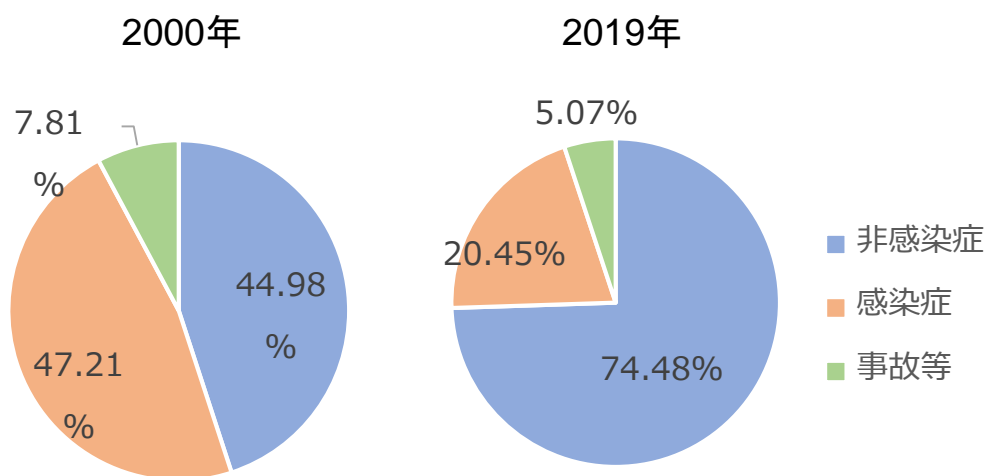


表3: 死亡原因トップ10（2019年）

順位	原因	割合(%)
1	脳血管疾患	18.69
2	虚血性心疾患	15.41
3	慢性閉塞性肺疾患	6.55
4	新生児障害	4.73
5	下気道感染	4.4
6	糖尿病	3.9
7	下痢性疾患	3.88
8	結核	3.42
9	肝硬変	3.08
10	悪性新生物	2.34

非感染症
  感染症

（出所） 図4及び表1 Institute of Health Metrics and Evaluation「Global Burden of Disease Study」よりコンソーシアム作成

## 1.3 NCDs関連政策・NCDs罹患に係るマクロ統計情報調査（2/3）

### ■ NCDs関連政策・施策

#### 【NCDs関連政策】

国家開発戦略である最新の「第8次5か年計画」（2020年～2025 年）（8th Five Year Plan）では、質の高い公平な保健サービスのアクセス拡大により全国民が健康と福祉を享受することを目標とし、保健・人口・栄養分野に関して、16項目の具体的な数値目標を設定している。NCDsに関する数値目標としては、NCDsに起因する死亡率を2019年の21.6%から2025年には16.8%まで減らすことを掲げている。

また、5か年計画の下位に位置づけられる、保健セクターの包括的プログラムである「第4次保健・人口・栄養セクタープログラム」（2017 年～2022 年）（4th HPNSP）では、NCDsの疾病負担の軽減を重点戦略の一つに掲げている。

## 1.3 NCDs関連政策・NCDs罹患に係るマクロ統計情報調査（3/3）

### 【NCDs関連施策】

- DGHSは、前頁の政策に沿って、NCD抑制事業（National Non-Communicable Disease Control: NCDC）の全国展開を進めている。DGHSは、現在実施中の2年間の試行期間を通じ、国内のNCDs発生状況や診療記録を電子データ化し、統計情報として集約する取り組みを行っている。これにより、地域別の医薬品供給量を調整するなど、NCDsに係る医療サービス向上を目指している。
- 具体的には、全国の郡（全国で492郡）の郡病院（Upazila Health Complex）にNCDsコーナーを設置し、コミュニティ・クリニック（公立）から紹介された患者等に高血圧や糖尿病等NCDsの診断・医薬品処方を行うとともに、必要に応じ1か月ごとに経過観察を行う。同時に、DGHSが地域ごとに選定する事業実施団体が、それぞれのモバイル・アプリを通じ、これら診断記録をDGHSの中央情報管理システム（Management Information System : MIS）に送信し、集積する仕組みとなっている。
- DGHSによると、これまで全国80以上の郡（全郡の約16%）にNCDsコーナーを設置しており、2022年中に220か所以上の郡（全軍の約45%）に設置される見込みである。